

---

# ある社長のインタビューでの話

Rail

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ある社長のインタビューでの話

### 【Nコード】

N7262P

### 【作者名】

Rail

### 【あらすじ】

とある社長の素顔に迫るインタビュー。

本日はお忙しい中、ありがとうございます。本日はどうぞよろしく願います。

こちらこそよろしくお願いします。

確認なのですが、本日のテーマは『不況下で急成長を遂げたIT企業××株式会社の日野本社長の素顔に迫る！』ということで、日野さんのバックボーンをおたずねすることになります。よろしいですか？

ご随意に。

日野さんはあの『太陽の家』の出身だとお伺いしたのですが。

ええ、そうです。幼少期に両親がいなくなったので。

太陽の家といえば、各界に優秀な人材を輩出するとして有名な児童養護施設ですね。ただ、普通の子供が入所するのは非常に難しいと噂ですが……

まあそうですね。私の場合はちょっと事情がありました。

事情、ですか。差し支えなければ伺っても？

ええ。……私は幼いころ、両親に虐待されていましてね。母に折檻された傷などは未だに残っています。食事は生きるのに必要

最低限かそれ以下ということが往々にしてありました。幼稚園なんかも当然いかしてもらえなくてね。

まあ。

確か五歳くらいの時ですかね。母が出て行っただんです。今思えば男ができたんでしょうが。それにより、家に残ったのは父と私だけになりました。

大変でしたね。

ええ、本当に。あの男は私が死んでも構わなかったんでしょ、私が冷蔵庫の中のを食べると激怒しました。仕方がないので生ごみをあさって食べてばかりでした。熱いお湯をかけられたことは一度や二度じゃありませんし、髪をひつつかんで振り回されたことも、寒い中ベランダに締めだされたこともありました。

その……近所の方が児童相談所に通報をされたりとかは。

私の覚えている限りありませんね。両親ともに柄の悪い人間で、すぐに手が出る手合いでしたから。近所の人も恐かったんでしょ。

では、ずっとお一人で耐えていらしたんですね。

小学校に上がる前までくらいですけどね。ちょうどそのころに父親が方々に借金をこしらえまして、自宅まで借金取りが来るようになっていました。私は一人で留守番をすることが多かった。

さぞ不安だったんでしょうね。

ええ、そりやもう。恐い人たちが扉をどんどん叩いているわけですから。普段自分を殴るばかりの父親でもいてほしいと思つてました。ですが、父親は五百万の借金をそのままに私を置いて失踪しましてね。

え！

気付いたのは一週間ぐらい経ってからですね。借金取りの人たちが口々に「あいつ飛びやがったな」とか「子供置いていくなんて」とか言ってるのを聞いたんです。それで子供心に、父親も母親と同じく自分を捨てて行つたんだと。

お辛い経験でしたね。その後すぐに太陽の家に？

いえ。親戚縁者もいませんでしたから、アパートにずっといましたよ。誰も迎えになんてこなかったし。借金取りの人たちも見切りをつけたのか来なくなつたんですけどね、一人だけ毎日のように来る人がいたんですよ。

その方は日野本さんのお父様を探しに？

んー……当時はそう思つてたんですよ。毎日のように来ては私にパンやお弁当を渡して、「賄賂だ」「お前の父親がどこにいるかわかつたら一番に俺に教えるよ」って。その食べ物のおかげで私は死なずに済んだ。

残された日野本さんが気になつたんですね。

ええ。本当に優しい人で。私が風呂の入り方すら知らないと

知ったら銭湯に連れて行ってくれたり、おながが空いたと言ったらファミレスに連れて行ってくれたり。そうしてなんとか食いつなぐことができたんですが、三か月経っても父親は戻ってきませんでした。

それで、どうなさったんですか？

ある日その借金取りのおじさんがね、真剣な顔して私をいろんなところに連れて行ってくれたんですよ。警察とか、役所とか、色々ね。その頃はまだ小さくて分からなかったんですけど、要するに捨て子として私を児童保護施設に入れる手続きをしてくれていたんです。その後太陽の家に連れて行ってくれたんですよ。「お前が今から行く家で立派に育って、たくさん金を稼げ。それからお前の父親の借金を返せよ」って言うて。でもおかしいですよね、そのおじさん、結局自分の名前も名乗らなかったんですよ。それにその後何年経っても会いに来なかった。

いい人だったんですね。

まったくその通り。私が太陽の家を出るときに教えてもらったんですけどね、そのおじさん、私を児童養護施設に入れるために方々を走り回ったそうなんです。一つ一つ訪ねて行ってどんな施設なのか見て回ってくれていたんだそうです。赤の他人の子供のために。それを知った太陽の家の所長が名乗りを上げてくれたんだそうです。

そうなんですか。

それから私は必死で努力しましてね。学生の内に起業して弱冠二十歳で社長になり、一気に金を稼ぐことができました。

その方の恩に報いるためですね。

はい。それから二年で一氣に会社を大きくしました。それと並行して興信所を雇い、お世話になった借金取りのおじさんを探しました。

見つかったんですか？

ええ。私は五百万用意してその人のところに向かいました。元々彼に借金取りの仕事は向いていなかったようで、ストレスで内臓を悪くして自宅療養をしているところでした。

受け取っていただけましたか？

いいえ。私が本当にお金を返しに来たことに大層驚いて、親の借金を何も分からない子供が背負うもんじゃないと断られました。

ではその後は？

食い下がりましたよ。「ならこれは私の持参金なので、嫁にもらってほしい」と。

……………は？

当時彼は五十を過ぎたところだったんですが独身だったんですよ。私は本気なのに全然相手にしてもらえなくて。忙しい合間を縫っては彼の元に行って熱烈なアプローチをしたものです。あれは会社を興した時よりもずっと根気のいる大仕事でした。

えー……その、日野本さんがプロポーズされたのは、その、お世話になった元借金取りの方、ですよ？

ええ。冗談と思われたようですけどね、私は彼ぐらい素晴らしい人間はいないと思うんですよ。

失礼ですが、借金取りというと……その、悪いイメージがありますよね？

そうですね。普通の人がつく職業じゃないかもしれませんが、ですが、幼いころの私の周囲にいた「普通の人」は私を何一つ助けられなかった。児童相談所への通報すらも。それどころか私のことを汚い子供だ、乞食だといってあからさまに見下す人もいた。そんな中で、薄汚くて飢えた子どもに優しくしてくれたのは彼だけでした。銭湯やファミレスに連れて行ってくれたのも、頭をなでくれたのも、泣いてる私を慰めてくれたのも、彼だけでした。

……そうなんですか。

最初に会ったころ彼は三十代でね。当時彼は私を男の子だと思ってたようで、銭湯に行った時は驚いてましたね。ああ、彼を口説くときにはそのことも言いましたね。一度は一緒にお風呂に入ってた仲なんだから、と。

では日野本さんの現在の配偶者の方は……

もちろん彼です。あんまりにも強情だったので既成事実を作ろうか一時は悩みましたが、その前に向こうが折れてくれて。今私が精力的に働けるのも彼という支えがあるからです。そもそも、ずっと彼に会いたいと思って頑張ってきたんですから。



あ、愛の力は偉大ですね。

ええ。この前もね……

社長！ 止めてください！ 前回も社内パーティーで同じようなことをやってご主人が恥ずかしさのあまり火が出そうだったとおっしゃってたじゃないですか！ 自重してください。

むしろここからの私と彼の愛のメモリアルが重要なんだが……

駄目です！ これ全国版のインタビューなんですからね！？ 君、今の話は適当にぼかして書いてくれよ！ くれぐれも社長の言うことそのまま使わないように！

は、はい。分かりました。

その後、某雑誌に「女社長の素顔 結婚相手は初恋の人！？」という見出しが踊った。

日野本夫婦の間で軽い夫婦喧嘩が勃発したことは言うまでもない。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7262p/>

---

ある社長のインタビューでの話

2011年5月27日16時03分発行